

さいたま高齢協だより

おひさま

秋・冬号

生活協同組合・さいたま高齢協

〒359-1103 所沢市向陽町 2001-3

TEL : 04-2941-2111

fax : 04-2941-2099

<http://saitamakoureikvou.com/>



あけまして
おめでと〜うございます

世界中に広がったコロナ感染症の脅威は未だ留まることなく、まだ当分続くだろうと思われまます。経済活動との両立の難しさは当然のことですが、医療現場の崩壊の危険も叫ばれる中で、有効な対策は講じられていません。仕事を失う人たちが激増し、生活相談は過去の経済不況を凌ぐ勢いです。その一方で株価は30年ぶりの高値とコロナ禍の中で、持てる者と持たざる者との格差拡大が着実に進んでいるようです。

さいたま高齢協は、超高齢社会の主人公は高齢者自身、お世話になるより社会を支えようと、20年前に設立された協同組合です。社会保障制度の改悪が続き、福祉事業の経営に青息吐息の昨今です。コロナ感染の拡大は、社会参加を通じて健康維持

や介護予防に取組んでいる高齢者にとって非常に厳しい暮らしを強いており、一刻も早い終息を願っています。感染拡大の脅威や、温暖化の助長で未来の人類の存在さえ危うくしている状況は、強欲な資本主義を礼賛してきた結果でしょう。人もまたこの地球に生きる多様な生命の一つにすぎません。新しい生活様式を、自らの暮らしの足下で見つめていきたいと思っています。

そして40年ぶりの協同組合法が12月に成立しました。「労働者協同組合法」です。働く人たちの協同組合として、4人以上で認可を受けることなく要件が整えば法人として活動できます。第1条に「地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能なで活力ある地域社会の実

現に資する」と記されている。高齢者の仕事おこしを本来の役割とする私たちにとって、力にできる法律だと考えています。新しい高齢協の形を組合員の皆さんと共に考える1年にしたいと思います。

私たち高齢協の介護現場は、今現在も感染症対策に追われ、気の休まることのない活動を続けています。幸いこれまでコロナ陽性者を出すとなく業務を続けることが出来ています。職員の中には高齢のケアワーカーも多く、自ら感染の危険も感じる中で日々奮闘されていることに本当に頭が下がる思いです。

協同組合の強みは組合員の存在です。支えられるのではなく、自らが社会の支え手になるために、何が出来るかを一緒に考えていきましょう。

理事長 坂林哲雄

2021年1月元旦



【経営概況】 部門別に徹底した改革が進む

さいたま高齢協の経営は年度当初から赤字が続き、昨年に引き続き厳しい状況が続いています。11月までの数字を見ると、やはり赤字です。通年予想でも赤字決算を免れない事態に至っています。

昨年6月の総代会を経て、役員体制が変わり、これまで曖昧だった経営方針が理事会だけでなく、職員との間においても議論が始まり、具体的な数字を前提にした改革が7月になってようやく始まっています。

8月から11月の数字は一進一退ですが、4月から7月の状況とは明らかに違った内容になってきています。改革に取り組み、少しですが成果につながっているように考えられています。

理事会・職員会議で確認している「経営方針」は次のような内容です。
①数字を見る力を養う 事業に係る職員が数字に関心を持つこと。そのために分かり易い経営報告を行うこと、日々の活動と数字を結び付けて考え、経営を我が事として考えることが出来る職員を育てる。
②ケア力の向上 ケアの質が高くなければ選ばれる職場にはなりません。質の高さが信頼を生み、職員の誇りをや団結を生みます。ケース検討の機会を増やし、利用者一人一人の最善のケアを職員みんなで議論し考える。その議論を通じて、さいたま高齢協のケア観の統一やケアの質の向上をめざす。

③会議・話し合いの文化をつくる

- i. 会議の定例会(立ち話程度の打合せでは意味がない)
- ii. 情報の共有(会議を節目にすることを伝え合う・資料の準備は全員の仕事)
- iii. 意見質問を受け止め合う力(抑えることをしない)

リーダーの役割はこの点で極めて大きい。自ら聞く姿勢を持ち職員の思いに耳を傾けなければならない。

■ 予算作成を部門別で行う

9月から3月までの予算を各部門で改めて作成しました。今までわからなかった数字を具体的につかみ、何をどうしたら削減できるのか。事業収入はどこまで増やせるのか。そのためにはどんな活動が必要なのか。部門別で考えることを求めました。また、予算と実際の差を毎月考え、次に生かすという当たり前のことにも取り組んでいます。

下の表は4月から11月の月次の収支を示しています(単位・千円)。7月まで赤字が続き、8月からわずかで赤字になっていきます。理由の一つは、事務所経費です。職員体制と経費の削減を進め、4月の875千円から11月の429千円へと大幅に下げることができました。また、車両の廃棄、リース契約の解除なども行い、事業費の見直しも進めました。

しかし、事業収入の伸びが十分ではなく、経営が上向きには改革の取組をしっかりと進める必要があります。資金繰りは4月と7月に厳しい局面があり借入を行いました。しかし、8月から黒字に転換したことで、資金の流出が止まり、流動比率288%と安定した数字になっています。また、部門別で予算管理が分かったことで、資金繰りも分かり易くなっています。

	期間累計		04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月
事業収入	64,276		6,601	7,002	8,605	7,861	8,589	9,110	8,135	8,372
事業原価	64,969	101.1%	8,653	7,976	7,919	8,662	7,849	8,423	7,911	7,577
総事業損益	▲693		▲2,052	▲974	686	▲801	741	687	224	795
事務所費	4,528	7.0%	875	559	870	506	444	491	354	429
営業損益	▲5,221		▲2,926	▲1,533	▲184	▲1,306	297	196	▲130	366

オンラインで全国の高齢協をつないで(Web研修会)

激変する社会の中で高齢協の価値と使命を考える

9月18日(金)

日本高齢者生活協同組合連合会 第1回全国研修会

高齢協連の全国研修会が初めてオンラインで開催され、全国11会員・68名が参加。曾我専務は「よい仕事」や「仕事・福祉・生きがい」に総合的に取り組む協同組合として、その価値と使命を考え合う研修会にと、2つの基調講演と実践報告があった。

○基調講演①田中夏子氏(長野県高齢者生活協同組合理事長)『協同組合としての高齢協の展望を考える』

協同組合とは何かを国際協同組合同盟が1995年に定めた協同組合原則にそって考えること、そして高齢者協同組合の特徴や強みをどう今後の取組に生かすのかという内容でした。高齢者協同組合の特徴は働く組合員と利用する組合

員の複合組織です。労働者協同組合と生活協同組合の性格を併せ持つ協同組合だと言ってきました。国際協同組合同盟でも高齢協のような「マルチステークホルダー型の協同組合」が必要とされている時代になると認識されているそうです。マルチとは多様性で、ステークホルダーは利害関係者の意味です。一般的にはサービスを利用する人と提供する人の「利害」は対立するものです。高齢協の場合に当てはめると、サービスを提供する就労組合員と利用する組合員、地域活動にに参加する組合員の皆さんの「利害」です。異なる立場の人たちが存在することを強みとして、地域の中で尊厳をもって暮らし続け

るという高齢協の目指す目標に向かうことが出来るのかということだと思います。例えば、住んでいる地域で暮らし続ける為に、何が必要かを一緒に考え、創り出す取組、身近な人が困っている問題を一緒に解決する取組、一人の困りごとを地域課題として事業に育てる取組などです。元気な高齢者が、暮らしの中で必要とされる様々な課題(介護もその一つ)を、自ら参加することを通じて解決できるのが協同組合です。高齢者協同組合は超高齢社会の中で、マルチステークホルダー型協同組合として、その特徴を生かして役割を果たすことが求められています。

○基調講演②古村伸宏氏(日本労働者協同組合連合会理事長)『地域で「ともに」はたらく・くらすしくみと文化』

高齢協の役割に関する講演の一部を連合会ニュースから抜粋します。

高齢期における「はたらく」という事をどのように考える、どのように創り出しているかが高齢協の中の大きなテーマではないか。ポストコロナ社会の高齢者・高齢期の価値をどのように考えたらいのか。戦後の成長期から現在の経済低迷期の2つを経験している豊かな実践者として、また懐かしい未来を語りうる経験者としてポストコロナ社会をデザインする役割があるのだろうかと思う。

また持続可能性を地域づくりの中心に据えた時、高齢協はどう向き合っていくのか。核家族化が問題となる中で、家族単位だけでなく地域の中で3世代構造をどう融合させていくかを探索していくべきではないのか。

「高齢期」とは人生の完成期ではなく利己的な考えから利他的な考えへ転換する時期であり、その考えに価値があるものと捉える事が大事なのだと考える。高齢協は生協と労協に橋を架ける存在なのだと同時に、高齢期と他の世代に橋を架ける存在にもなっていくべきと考える。



第十五回通常総代会の報告

コロナに負けず、孤立や分断を乗り越え、支え合う社会をめざしましょう

6/27

今回の総代会は、コロナ禍の中での実施となり、本来であれば多数の組合員、総代の皆さまの出席と求める処でしたが、「書面議決」を優先するという苦肉の策での実施となりました。そのため、会場も所沢の本部事務所のある会議室に変更して実施。近隣の総代の方々、理事・監事の方々にご出席頂き、無事行うことが出来ました。一方で、様々なご意見を書面で頂きました。承認された議案をの概要等を掲載し報告とさせていただきます

【各議案の概要】

【成立】総代92名の内、過半数の84名(本人出席6名、書面出席78名、委任状出席0名)の出席

【第1号議案2019年度活動のまとめ】

2019年度は、金融庁の「老後2千万」(6月)が話題となりました。共生社会の構築へ「我が事・丸ごとの地域づくり」が謳われました。東京オリンピックが中止となり「自粛」で閉じた年になりました。

①ヘルパーステーション
②ふれあい岩槻と
③デイサービス
④ケアプラン
まあちの4事業を営んでいきます。様々な課題があり、赤字を克服できない1年となりました。

①ヘルパーステーション
②ふれあい岩槻と
③デイサービス
④ケアプラン
まあちの4事業を営んでいきます。様々な課題があり、赤字を克服できない1年となりました。

【第2号議案2019年度決算】下表参照

さいたま高齢協 2019年度事業別損益計算書概要(2号議案関連)

区分	所沢事業所まあち			ふれあい岩槻	本部	合計
	ホームヘルプ	ケアプラン	デイサービス	ホームヘルプ		
福祉関連事業収入 A	43,372,827	6,831,526	19,005,293	22,967,754	0	92,177,400
その他の事業収入 B	0	0	0	0	361,548	361,548
営業外収入 C	89,705	24,750	14,460	136	873,904	1,002,955
収入合計 D=(A+B+C)	43,462,532	6,856,276	19,019,753	22,967,890	1,235,452	93,541,903
経費合計 E	36,577,747	4,747,217	11,433,619	26,293,285	11,575,630	90,627,498
事業損益 F(D-E)	6,884,785	▲4,577,343	▲6,293,355	▲3,325,395	▲10,340,178	▲17,651,486
本部管理費収入 G					2,107,631	2,107,631
本部管理費支出 H	0	0	0	2,107,631		2,107,631
営業外支出 I	0	0	0	0	1,222,899	1,222,899
当期損益 (F-H(G)-I)	6,884,785	▲4,577,343	▲6,293,355	▲5,433,026	▲9,455,446	▲18,874,385

(注)営業外収入は雑収入、受取利息など、営業外支出は借入金、法人税などです。

【第3号議案2019年度 剰余金処分案】

今年度は、前期までの繰越剰余金727万円を当

職員一丸となって黒字化に努めます。地域活動につ

いては、引き続きその重要性を確認しながら、国には最低限度の給付の維持を要求するとともに、高齢

【第4号議案2020年度 活動方針】

介護保険事業は引き続き厳しいさが予想されます、

者協同組合でできる事、協働の輪を広げていきます。

【第5号議案2020年度 予算】下表参照

さいたま高齢協 2020年度事業別予算書概要(5号議案関連)

区分	所沢事業所まあち			ふれあい岩槻	本部	合計
	ホームヘルプ	ケアプラン	デイサービス	ホームヘルプ		
福祉関連事業収入 A	46,700,000	10,560,000	21,305,000	28,350,000	0	106,915,000
その他の事業収入 B	0	0	0	0	0	0
営業外収入 C						0
収入合計 D=(A+B+C)	46,700,000	10,560,000	21,305,000	28,350,000	0	106,915,000
経費合計 E	38,770,000	10,513,500	23,955,660	25,922,800	7,831,542	106,993,502
事業損益 F(D-E)	7,930,000	46,500	▲2,650,660	2,427,200	▲7,831,542	▲17,651,486
本部管理費収入 G					7,556,800	7,556,800
本部管理費支出 H	3,360,000	844,800	1,440,000	1,912,000		7,556,800
営業外支出 I	0	0	0	0	310,000	310,000
当期損益 (F-H(G)-I)	4,570,000	▲798,300	▲4,090,660	515,200	▲584,742	▲388,502

(注)各事業での本部管理費は、介護保険及び障害福祉事業収入の8%を計上。本部営業外支出は法人税です。

◎ヘルパー歴10年になりました。ご利用者さんに寄り添って心をかけて稼働しています。ただヘルパー不足により、余裕をもってできていないか不安になります。求人力を入らせて下さいます様に。
◎高齢化が進む中、なかなか

議案に寄せられた意見
一部を抜粋

【採決】全て可決 下表参照

議案	賛成	反対	保留	棄権
第1号	73	0	4	1
第2号	73	0	4	1
第3号	73	0	4	1
第4号	72	0	5	1
第5号	72	1	4	1
第6号	70	2	1	5
第7号	71	0	5	2
第8号	73	0	0	5

【第6号議案 役員選出】
各事業部門ごとに、運営に直接携わっている職員から理事を選出しました。

【第7号議案 役員報酬】計上無し

【8号議案 議案の効力】

【議案に対する質疑】

増田アツミ総代から、多数の総代から意見が寄せられており、その内容を活動に生かすべきとの発言がありました。

◎コロナの影響で介護を含めたくさんの企業がマイナス状況だと思えます。家庭でも社会でも皆我慢して頑張るしかない時だと思えます。
◎地域活動について、所沢でも地域サロンや向陽町町内会との協同「向陽中の生徒の実習受け入れ」に共に暮らす新所のみ

作りがすすみます。Love & Peace じいさましよう。

◎高齢者・高齢化・と私達の世代は束ねられ、問題視されていつになったら尊敬される社会になるのだろう。今のままで無理ですね！そしたら温故知新の地域活動く町興しをみんなで楽しくやりますよ。その点「映画会」はみんなで楽しめ、感動を共有できた。仲間作りがすすみます。Love & Peace じいさましよう。

地域に根付いた活動ができません。アイデアが有ってもそれを生かすノウハウを持たず各地域への参加も取り組みを協力するまでに至らず、残念に思っています。各地域の事業取り組みをもっと広く広報して頂けたらと思います。
◎本業の改善が最も大事ですが、他の収益対策も実行したらどうかと思います。例えば、①土地購入と同時に家賃収入が入るような計画②広く寄付金を求めるなど。

◎「共に暮らすしんとこの街」には訪問まあちも参加していません。みどりの森 12月でお掃除関係は終了させて頂きましたが、ボランティア登録はしています。野良活もありませんが、議案書に記載がありません。地域活動のフォローが見えてこないので郵送ではなく、地域の方に持参・ポストイング等、生活協同組合をもっと知って頂く。地域の方に安心して頂く社会作りを信頼されている「さいたま高齢協」がもっとヘルパーさんやボランティアの方に声掛けして頂きたいと思っています。

◎まあち訪問は黒字というところで、毎月のヘルパー会議で利益が出ているとわかればもっとみんなで頑張ろうという気になるよう思われません。どうして他が赤字なのか、原因は何なのか、策はないのでしょうか？

◎管理責任者、特に上部(席)の責任者の明確な目標設定と達成度の割合が曖昧のような気がします。デイサービスの数年に渡る赤字、見込みがない場合には閉鎖すべきと考えます。働きやすい環境に常に気を向けるよう努力して頂けると有難く思います。
◎事業所の時給は10年以上変わりません。コロナ等で自己負担も大きいです。例えばアルコール・マスク・手袋、事業所からいただいたりしますが足りません。

「ち」実行委員会への参加、野良活等があるが、まとめにも方針に言及されておりません。
◎所沢では増田顧問・元デイのボランティアの坂井様が中心となって第2第4木曜日に開催しています。皆様毎回楽しみにされています。
◎「共に暮らすしんとこの街」には訪問まあちも参加していません。みどりの森 12月でお掃除関係は終了させて頂きましたが、ボランティア登録はしています。野良活もありませんが、議案書に記載がありません。地域活動のフォローが見えてこないので郵送ではなく、地域の方に持参・ポストイング等、生活協同組合をもっと知って頂く。地域の方に安心して頂く社会作りを信頼されている「さいたま高齢協」がもっとヘルパーさんやボランティアの方に声掛けして頂きたいと思っています。

◎訪問介護で働くヘルパーの皆さんの労働条件に関して、有給休暇や雇用保険、外部機関の数字との比較を含めて改善を求める意見も寄せられています。

◎その他
・コロナ禍の中での活動に対する共感と励ましの意見
・決算に関して、部門別の説明が必要だという意見や赤字部門の改善や改革を求める意見がありました。
・予算には説明不足で数字合わせではとの厳しい指摘もありました。

◎管理責任者、特に上部(席)の責任者の明確な目標設定と達成度の割合が曖昧のような気がします。デイサービスの数年に渡る赤字、見込みがない場合には閉鎖すべきと考えます。働きやすい環境に常に気を向けるよう努力して頂けると有難く思います。
◎事業所の時給は10年以上変わりません。コロナ等で自己負担も大きいです。例えばアルコール・マスク・手袋、事業所からいただいたりしますが足りません。

◎管理責任者、特に上部(席)の責任者の明確な目標設定と達成度の割合が曖昧のような気がします。デイサービスの数年に渡る赤字、見込みがない場合には閉鎖すべきと考えます。働きやすい環境に常に気を向けるよう努力して頂けると有難く思います。
◎事業所の時給は10年以上変わりません。コロナ等で自己負担も大きいです。例えばアルコール・マスク・手袋、事業所からいただいたりしますが足りません。

経費削減のご協力のお願い!

「おひさま」の印刷と郵便に毎回10数万円かかっています。メールで配信出来れば、費用の削減につながります。また、ニュースの配信回数も多くすることが出来ます。お手をかけして恐縮ですが、ご協力頂ける組合員の方は、以下にメールアドレスをお知らせ下さい。ぜひ、宜しくお願いします。

sasaei-saitama@amail.plala.or.jp

さいたま高齢協の事業所

まあち 〒359-1103 所沢市向陽町 2001-3
 訪問介護 04-2941-2755
 デイサービス 04-2941-2050
 ケアプラン 04-2941-2080

ふれあい岩槻 〒339-0057
 さいたま市岩槻区本町 1-5-33
 訪問介護 048-749-5773

働く仲間募集

沢あち 護誌 所まあち 介日

まあち3部門がかかわるとなった見取りの事例

昨春秋、地域包括から依頼をお受けして担当となりプランを作成、約1年間まあちデイに楽しそうに通所されながら、まあち訪問が一人暮らしのご自宅の掃除などの支援をいたしました。

元々心疾患のある方で、年齢も95歳と高齢でした。

夏頃、デイでお会いすると「もうこれも卒業かな、体力がなくなっているし、こんなに手首も細くなってきました」と話さされていました。そして今秋に心不全の為、入院となりました。コロナの為、弟さん夫妻の面会もままならず、ご本人も心細い思いをしていたところ、担当医から療養型病院に転院するか自宅で人

生の幕を閉じるかとの選択を迫られました。療養型に転院すると、コロナの対策からもう2度とご本人とは会う事が許されない今日の病院体制です。

自宅の隣に弟さん夫妻がお住まいになっていて何かと面倒を見ていらしたので、弟さんご夫妻も80代の為、ご自宅での看取りには、当初かなり不安があり躊躇されていました。しかし、ご本人が「家に帰りたい」とはつきりと仰り自宅へ戻す決心をされました。そして在宅医師、訪問看護、福祉用具担当者、ケアマネ、まあち訪問介護との連携による支援が11月3日の退院後から15日にご逝去するまで13日間行われました。訪問看護による体調の確認とまあち訪問介護による排泄介助がほぼ毎日行われ、弟さんご夫妻は当初の不安は、日を重ねる毎に消え、安心されたご様子で、これで良かったご様子で、これで良かつ



たと言われていました。

まあちデイの職員がお見舞いに行き、お声をかけ励ました。ケアマネも排泄介助に関わりながら、弟さんご夫妻の思いを受け止めました。息を引き取る前日には「富士山が見えます」とご本人が言われ、弟さんご夫妻は、姉は喜んでいらっしゃるんです。ありがとうございますと感謝のお言葉をいただきました。

心に残る支援にかかわる事ができました。感謝をいたしております。医療連携はコロナにより益々求められる現状です、今後もまあちのメンバーが心を一つにして支援ができますように願っております。

ケアプラン 大野るり子

まあち20年 利用者に寄り添う介護

ヘルパーステーション まあちは平成12年新所沢 中新井で産声をあげ20年の時がたちました。現在は同市 向陽町に移転しすでに8年がたちます。設立当初からのヘルパーさんも現在活躍しています。とても心強い仲間です。

常に利用者に寄り添う支援を心掛け皆で頑張ってきました。現在は訪問介護のほか障害者支援にも力を入れています。向陽町のある新所沢地区は「障害者の街」として多くの施設もあり障害を持った方が生活し様々に活躍されています。

まあちは「共に暮らすしんとこの街」の実行委員会に所属しています。

現在、同行援護サービスを利用する視力障害の方が8人いらっしゃいます。その中のお一人は生まれた時から視神経の病があり、盲学校から音楽大学で学び、今はまあちのデイサービスにピアノ演奏に来て頂いています。デイの利用者の方たちが目を輝かせながら合唱されています。

また外出が出来ない方からは、家の中で種から育てて苗を頂きまあちにも飾らせて頂いています。

これからもまあちの立ち上げの時の地域に安心を作るを信条にわが街に温かな支援を続けて一人でも穏やかな心を持ちながら日々を過ごして頂けるよう励んでいきます。

ふれあい 岩槻 介護 介日誌

11月から新しい体制となり、一步一步あゆみはじめました。

ご利用者の笑顔の為にふれあい岩槻スタッフ一同コロナにも負けず頑張っております。

2020年を振り返ると目まぐるしい1年でした。事業所設立以来はじめての実地指導を経験。新しいスタッフで乗り切る事が出来ました。沢山の方たちと出会い、研鑽し、多くの仲間と絆を深める事が出来ました。

2021年は着実に！堅実に！さいたま高齢協の一員としてまあちとの交流を深め、共に飛躍の年となるよう努力して参ります。

やさしさを強さにかえて、一人一人の笑顔のために。

これからもどうぞよろしくお願いたします。

～組合員の方々からのお便り～

組合員の方々からの投稿をお待ちしています。最近ではコロナで新しい生活様式が求められています。組合員の皆さまの日常はどうでしょうか。お寄せいただいた意見等は可能な限り紙面やHPで掲載します。

終活は手を携えて！！
ライフ・アンド・エンディング
センター
須斉美智子

終活という言葉は、2009年に週刊朝日の連載で初めて使われたとされています。その終活という言葉が現れるずっと以前、今から20年ほど前に私たちのNPOでは葬送10回講座を立ち上げました。

終活という表現もない時代、到達点と考えたのが当時300万円とも400万円ともいわれた葬儀でした。かかりすぎる費用に問題点を見出して、葬送を取り上げ10回連続講座を開きました。

しかし、葬儀だけで終わりではなく、更に問題点がでてきたのです。そこで気づいたのは、実際の人の死後には葬儀以外に多岐にわたる死後事務が残されることでした。特に単身の人の死後には、その処理にかかる自治体の負担が大きく、地域安全にも問題が

ありました。

2004年には、各個人が暮らしを客観化できるように『もしもノート』を作成し、エンディングノートブームを引き起こしました。ノートの記入は終活への取り掛かりに役立つものと思います。更に、私たちは人生最期への備えとして「死後事務委任契約」(エンディングパスポート)を事業化しました。

年末には県の助成金を受けて「高齢おひとりさまに伝えたい終活死後事務のこと」をテーマとして、死後事務の有用性を講座で訴えました。

多数の団塊の人達が75歳を迎える2025年を前に、この取り組みを高齢協など他団体と手を携えて広めることが出来ることを期待しています。

昨年は多くの皆さまにミニシアターを応援して頂きました。

今度は「街の映画館」がお返しする番です。

今後ともご一緒にどうぞ。

～「高齢者」というけれど一人ひとりの人間です。～

戦後ベビーブームに生を享けた世代～。

みんな忙しく働きそして生きて来た～。

たくさんのお後悔が頭をよぎる・・・。

だからこそ出来ることでお返ししたい。

誰でもない「自分」の足跡(個人史)を紐解き、もてる力で無理をせずに、出来れば仲間と一緒に～。

<そこで死ぬまでにやりたいこと>

①埼玉県のすべての市町村で「映画会」の開催を！

②「七ッ梅酒造跡」を歴史と文化の発信拠点に！

③みんなが「平和」に暮らせる世界を！イマジン♪

「深谷シネマ」館長・NPO 埼玉映画ネットワーク・

(一社) まち遣い深谷代表 竹石研二 (73歳)



「道」
 1954年上映(モノクロ)イタリア映画
 29回アカデミー賞受賞
 【監督】フェデリコ・フェリーニ 【平山清一(上尾・理事)】

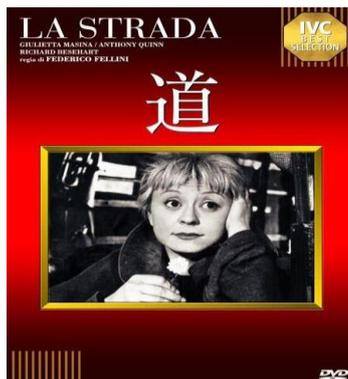
今さら説明の不要のフェリ

ーニ監督の名作中の名作 「道」。すでに観た方も多いかもしれません。白黒の古い映画ですけれど。

テーマ音楽だけでもとても有名できつとどこかで、何かの機会に耳にしたことがあると思う切ない素敵メロデーです。

この世の中には必要のないものなど何も無い。すべては何かしらの役割があつて存在しているのだ。転がっている小石や空の星にも存在する意味と価値がある。まして人間は生きていくだけでも尊く重要な意味があり、決して命を

粗末にしてならない。貧しく軽い知的の障害を持つ精神薄弱な田舎娘ジェルソミーナに対して大道芸人の主人から暴力を受けて自信を失い落ち込んでいるところに知人の綱渡り芸人に慰められる場面での言葉である。お前だって何かの役にたつていると言われたジェルソミーナは、その小石を貫い、小石をじつと見てうなづく。誰にでも、落ち込み、自信がなくなる時がある。自分を無価値な人間だと思ひ込んでしまう。そんなとき、「小石だつて、役に立っているんだ」と言われると、嬉しいものです。



格差社会といわれる現在、決して弱者に優しく住みやすい社会ではないです。コロナ禍で失業者や生きていく希望を喪失する人や自死者も増えてきているこの悲しき世の中。しかし、自分の存在価値を与えてくれる言葉つて、勇気付けられますね。私たちも勇気を与えられる人間になりたいですね。

在宅で過ごす時間が多くなる中、暖かな気持ちに浸って観て欲しい作品です。あまりにも有名なラストシーンは何かを感じることでしよう。

【編集後記】

高齢者生協という組織を運営する体制が不十分な中で、これまで組織を担ってきた役員が交代することになった。この半年余り2頁に掲載したように「経営問題」が最優先で、「おひさま」を発行する余裕がなかった。誰もがボランティアで面倒な作業を引き受けることは負担である。今回編集を担った私自身も同様で、得意な人が出てきてくれないものかと思ってきた。しかし、そんな酔狂な人はいるはずもなく、年末年始の休みをこの作業の為に使っている。しかし、取組めばそれなりの面白さがある。▼「おひさま」というニュースレターは組合員をつなぐ貴重なツールである。理事会が一方的に発信するのではなく、組合員同士の縁結びに、元気に活動している方々の活動をもっと掲載したいと思う。そんな記事であふれるニュースレターであれば、組合員の皆さんを元気づけることが出来るように思います。一人一人の組合員の思いを載せたものにできるように。意見や感想、日頃の取組などをお寄せください。

組合員募集

私たちの仲間になりませんか！

【ご加入にあたって】

- ① 所定の加入申込書
 - ② 出資金(一口千円か)が必要
- お申込み・お問い合わせ
 04294112099
 年会費・月会費は不要です。
- 私たちは「仕事」「福祉」「生きがい」活動に取り組み高齢社会を支え合うために生まれた生活協同組合です。
- 年齢に関係なく、気軽にどなたでも協同組合に入れます。老若男女が支え合う「福祉のまちづくり」あなたも一緒に！